

黒住教 お日の出を拝み、感謝と感動の心で誠を尽くす ふるさと・イキイキ・だより

発行：黒住教本部 岡山市北区尾上神道山 TEL:086-284-2121 FAX:086-284-4756 http://www.kurozumikyo.com/



▶ 舞楽「宝田」を披露

第二回HOPEミーティングでの 吉備楽演奏

副教主 黒住宗道

日本学術振興会主催 九月二十八日

ので、小野盛孝楽長をはじめとする奏楽寮楽人一行と私は会合初日の九月二十八日に箱根を訪れました。ホテルの特設ステージで行われた演奏会は、まず私が吉備楽と黒住教について英語で紹介して公演されました。いずれの曲目も大好評でした。とりわけ、「天皇陛下がお田植えから稲刈りまでをなさる皇居内の稲田に鶴が舞い遊ぶ様を通して、世界大和、国家安泰、五穀豊穰、長寿繁栄を願う優雅な舞」と紹介した舞楽「宝田」を、有り難いことに、今上陛下による今年の稲刈りが行われた当日に披露することができ、忘れられない思い出となりました。



▶ 演奏を終えて

グローバル化が進み、あらゆる分野で学問の細分化(専門化・特殊化)が加速している今日、「このような時代こそ、科学者に

は、研究活動に際しての幅広い視野とひとりの人間としての感性の涵養が求められている」として、去る九月二十八日から三日間にわたり、「第二回HOPEミーティング」という科学者の研修会が神奈川県箱根町で開かれました。

刺戟的だが、脳生理学の権威から「葉をいただいたことが、私にとって刺激的な感動でした。次に、昨年の物理学賞受賞者の小林誠博士から「日本人の研究者にとつても、初めて味わう日本古来の音楽だったはず...。本当に良い機会を有り難うございました」と、お人柄の伝わる挨拶をいただきました。また、二〇〇二年の化学賞受賞者の田中耕一氏が終始にこやかな笑顔で演奏を楽しんで下さっていたのも印象的でした。

将来のアジア太平洋地域の科学技術を担う優秀な若手研究者が「人間力」を養い、新しい時代を切り拓くリーダーとして育つようにと期待(HOPE)された、日本をはじめ、中国、韓国、オーストラリアなど十四の国・地域から選ばれた大学院生百余名が、国内外のノーベル賞受賞者から合宿形式で直接指導を受けるといふ、日本学術振興会主催による公の行事でした。

演奏終了後、真っ先に駆け付けて下さったのは一九八七年のノーベル医学・生理学賞受賞者の利根川進博士でした。「素晴らしい演奏を、私自身大いに楽しませていただいたことと、内外の若い研究者に聴かせてもらったことを、心から感謝します。わが国に、このような伝統音楽があったのですか...。とても

私たちの大切な宝物である吉備楽を通して、日本の伝統文化とお道の有り難さを一人でも多くの人に伝えたいと、改めて感じた今回の演奏会でした。

実は、研修の一環として「日本の伝統文化の鑑賞」があり、歓迎レセプションで吉備楽の演奏を主催者から依頼されていました

楽があったのですか...。とても

刺激のなひとときでした」とお礼を言つて下さり恐縮しましたが、脳生理学の権威から「葉をいただいたことが、私にとって刺激的な感動でした。次に、昨年の物理学賞受賞者の小林誠博士から「日本人の研究者にとつても、初めて味わう日本古来の音楽だったはず...。本当に良い機会を有り難うございました」と、お人柄の伝わる挨拶をいただきました。また、二〇〇二年の化学賞受賞者の田中耕一氏が終始にこやかな笑顔で演奏を楽しんで下さっていたのも印象的でした。

祈り

教主黒住宗晴

十二月十二日、政府主催による天皇陛下御即位満二十年記念式典が東京の国立劇場において、天皇后両陛下ご臨席のもとに挙行されました。教主様には、鳩山由紀夫首相から正式のご案内状が届きました。

また翌日の十三日には、天皇后両陛下がお招きの「宮中茶会」のご案内をいただき、教主様はその榮に浴して出席されました。

なお、十二月十二日東京で執り行われました、天皇陛下御即位二十年奉祝国民祭典に際し、奉祝委員会から、教主様に「奉祝文」の依頼がありました。本号はその御文を掲載します。

祈りの天皇陛下、皇后陛下

皇后陛下が皇太子妃であられたとき、「皇室は祈りでありたい」と仰せになって、その祈りの最たるものとして元寇の役における亀山天皇の御祈りと、混迷を深めた江戸時代末期の孝明天皇の御祈りを挙げられたそうです。このことを、かつてある先輩から教えられて、私は心底感動いたしました。

天皇皇后両陛下の祈りの御日々、この御祈りを象徴するような御姿を、先年訪ねられたサイパン島のいわゆるバンザイ岬に、私たち国民は拝み奉りました。そこには、私ども世にいう

宗教者の祈りをはるかに超えた清しくも気高いものが満ちていました。テレビに映し出される頭を深く垂れて祈り続けられる両陛下に手を合わせながら、多くの国民が共に英霊のご平安を祈り、同時に、天皇陛下、皇后陛下を戴く日本国民の一人としてある自身の幸せをかみしめたことでした。

その昔、明治天皇は、ご幼少の江戸末期、御父孝明天皇の御身を焦がすような日々の御祈り、就中、蛤御門の変のときの御祈りも共にされています。それが、

多くの御製に込められた敬神崇祖の御心は格別のものを感じます。

とりわけ、終戦直後の昭和二十年九月二十七日、先帝昭和天皇が連合国最高司令長官D・マッカーサー元帥に御会見のときの御言動は、まさに祈りの権化といえましょう。マッカーサーをして「我、神を見たり」と言わしめたのも、すべて祈りから生まれる大御心のなせるものと拝察します。このときに始まると申しても過言でないと思いますが、昭和天皇の全国御巡幸、

その中で唯ひとつ叶えられな

かつた沖縄県への御幸。御父君先帝の御心そのままに、沖縄に捧げ続けられる祈りと熱き御心の今上陛下皇后陛下に、どれほど多くの国民が心清められていることでありましょう。それは、亀山天皇、孝明天皇と全く軌を一にする大御心と拝します。

このように、大御心の尊き有り難きことに思いを致すとき、改めて伊勢皇大神宮のご存在が大きく強く迫ってまいります。申し上げるまでもないことですが、平成二十五年には、第

六十二回の式年遷宮が斎行されます。まずお伊勢様です。

天皇陛下、一聖二代の大嘗祭という祈りの極致を、伊勢の皇大神宮に捧げられるときに始まる。天照坐皇大神と御同徳御同座の祈りの御日々こそ、この二十年間貫かれてきたまさに無窮の大御心と確信します。

改めて、
天皇陛下、皇后陛下の御聖寿の萬歳と皇室の御弥栄を心よりお祈り申し上げます。



▶十一月十三日お茶会の後、皇居前にて

人の喜びを 我が喜びとする

ここ数年、黒住教本部神道山へお問い合わせの多かった悩み事、相談事の中より、大教殿司教がご質問にお答えいたします。

【質問】私の知り合いに人のめんどろ見が良い、心やさしい方がいます。しかし、その方はあまり運がよくないといいますが、幸せそうではありません。

あのようにいい人がどうしてと思えます。(S・T)

【お答え】良いところに気付かれませんでしたね。教祖様は「善人の罪を作るな」と御教え下さっています。善人と呼ばれる人の多くは心やさしい人たちで、やさしいがゆえに心を痛めがちです。

私たちが人間は、生命の親神である天照大御神様から「ご分心(みわけみたま)」をいただいた神の子です。ですから、自分自身の心を痛めると、大御神様のご分心まで痛めてしまうことになり

ます。教祖様は、「人情厚くして、人情に迷うな」とも御教えですが、かわいそうな人を見たり、辛い場面に遭遇したりしますと、善良な方は「かわいそうに！」と同

情します。人としての在るべき姿として、憐憫の情をもよおすことは尊いことですが、そのかわいそうな状態をともすれば自分自身に重ねてしまい、陰にこもっておかげを取り逃がしてしまいがちです。ですから、「かわいそうに」と思うやさしい心にとどめず一歩進めて、その方にぜひともおかげを受けてほしいと祈ることが、真に道に適った生き方といえます。

教祖様の歩まれた道を見習い、同じようにつとめていくことが、本教の教理です。教祖様は、人の喜びをわが喜びとして人生を歩まれました。病み悩み苦しむ人に出会うと、「おお、かわいそうに」と手を差し伸べられ

ました。そして、その方がおかげをいただくようにと強く祈られたのです。私たちは、「かわいそうに」と思っても、その段階にとどまってしまっていて、その方のために祈ることを怠る場合が多

いのではないでしょうか。人の悲しみをわが悲しみとする事は大切ですが、そこに沈殿してしまふことが問題でありまして、そのために「開運の道」からも外れてしまうのです。

最近の科学では、脳の研究が進んでいて、同情するあまりその悲しみにひたつていると、脳は悲しむべき主体が分からなくなり、自分自身が悲しい状態になるといいます。同情だけにとどめず、その方がおかげをいただくようにと祈りに変えますと、その悲しみを自分の心に刻まずに済みます。人の幸せを祈ると共に、人の喜びを我が喜びとする生き方をする人に運の悪い人はおりません。

人生で出合う色々な出来事の中で、親心を大きくする様にとめると、家族はもちろんまわりの人達も開運の道が開かれます。

(大教殿司教 藤原德行)

《新刊紹介》

「続太陽の神人黒住宗忠
—神のご開運を祈る—
山田雅晴氏が上梓



神道研究家の山田雅晴氏は、平成八年(一九九六)に、激動の時代を生き抜いていくために教祖神の御教えを一人でも多くの

人に知ってもらいたいと、「太陽の神人黒住宗忠」(たま出版発行)を著されましたが、本教お道づればもとより広く一般の方々にも読まれ、同著が切っ掛けとなつて本教に入信した方も次々とありました。

読者からは「続編を出してほしい」という声が出されています。氏には数年後から続編に着手し、より深く研究に研究を重ねられていきましたが、この度、「続太陽の神人黒住宗忠—神のご開運を祈る—(たま出版)が発刊されました。

続編は「宗忠はなぜ不世出の神人と呼ばれているのか」「宗忠はいかに危機を脱して、神人へ到ったか」「人生の達人・宗忠が示す『道の理』で、明るい人生を味わう」「神人・宗忠が吉備国に出現した歴史的・霊的背景」「心の岩戸」を開き、神人と楽を目標とする「五章で構成されています。また、同著の写真の一部は本教から提供させていただきました。

氏は「宗忠の『神のご開運を祈る』ことは神と人間の相互信頼になります。：毎日『神・仏・先祖』のご開運を祈ることで、『守護』の存在は必ず守ってください」という信頼が深まりました。『とおわりに』の項に記されています。客観的に分かりやすく、教祖神とその御教えが、混迷する二十一世紀に生きる人々の「人生の指針」となると確信して紹介されています。

ご購入をご希望の方は、日新社へお申し込み下さい。
●頒価(一、三〇〇円送料一六〇円)
〒701-1212
岡山市北区尾上神道山 黒住教日新社
☎〇八〇二八四二二二
FAX 〇八〇二八四七五六

しんとう じん 神道山からのお知らせ(平成二十二年二月～六月)

黒住教本部の主な行事

- 一月一日(金)午前零時 歳旦祭
- 新年最初の御神前行事です。
- 午前六時五十五分 日拜式(初日の出)
- 一月十日(日)午前十時 道づれ新春開運祈願祭
- 全国より(お道づれ)が初詣にお参りされます。
- 一月十八日(月)教主様伊勢神宮内宮ご参拜(午前八時三十分内宮宇治橋集合)
- 毎年恒例の教主様伊勢神宮初詣です。お道づれの方々もこの日に併せて伊勢参宮を計画されます。
- 三月二十日(日)午前十時三十分 春季祖霊祭
- 四月三日(土)午後二時三十分 教祖大祭
- 黒住教三天祭の一つです。
- 四月九日(金)神道山コイの山のぼり奉流(五月十六日まで)
- 各家庭で役目を終えた鯉のぼりが、神道山で雄大に泳ぎます。毎年約一五〇匹の鯉のぼりが奉流されます。
- 五月四日(火)第三十二回まるごとキッズ・フェスタ(五日まで)
- 小学生を対象とした二泊二日のイベントです。参加ご希望の方は本部までご連絡下さい。
- 五月五日(水)午前十時三十分 第十九回こども健康まつり
- 約一五〇匹の鯉のぼりの下で、楽しいイベントが行われます。「家族で」参加下さい。
- 五月九日(日)午前十時 婦人会総会
- 五月二十三日(土)第十二回まるごとボランティアの日
- 社会福祉施設を中心に全国の教会所が一斉にボランティアを行います。所属の教会所を通じてご参加下さい。

六月二十日(水)午後二時三十分 大祓大祭

・三大祭の一つです。半年の罪けがれを祓う神事です。

大元・宗忠神社の主な行事

- 一月二日(金)午前零時 元旦祭
- 一月十一日(月)午前十時 どんと祭
- 新年の松飾り、書き初めや古いお札をお祓いしておはやし(焼納)する神事です。一年間の無病息災を祈つて、おはよしの炉の火をつきたてのお餅を焼いて、おぜんざいと一緒いただきます。
- 二月三日(水)午後二時三十分 節分祭
- 教祖宗忠様が詠まれた「鬼追わず福を求めず我はただ 追われし鬼を福に導く」とのみ教えのままに、婦人会の皆様による手作りの「福豆餅」約五万个が特設ステージより「鬼は内、福は外。福は内、鬼は内…」のかけ声で参拝者にまかれま

神楽岡・宗忠神社の主な行事

四月二十五日(日)午後一時 春季例大祭

神道山ついでに御日拜のご案内

＊お日の出の郷「神道山」では、毎朝、お日の出の時刻二〇分前より、日拜所で「御日拜」を執り行っています。

＊御日拜…毎朝のお日の出を迎える神事です。どなたでもご参拝いただけます。ぜひ一度お参り下さい。

＊毎月一日の「ついでに御日拜」には、多くの方がお参りになります。

「ついでに御日拜」の開始時刻は左記の通りです。

- 一月一日…午前六時五十五分
- 二月一日…六時四十五分
- 三月一日…六時十五分
- 四月一日…五時三十五分
- 五月一日…四時五十五分
- 六月一日…四時三十五分

神道山「養心塾」道のいろはのご案内

○お日の出の郷「神道山」心洗われ英気が養われる御日拜
○開運への入口「養心塾」黒住教は開運の宗教です。より幸せな人生を！
対象者 黒住教信仰の日が浅い方。
お道づれ信仰者に限らず広く一般の方々も参加できます。

- 〈期間〉春のコース(秋のコースもあります)
- いの講 四月十六日(金)・十七日(土)・十八日(日)
- るの講 五月十四日(金)・十五日(土)・十六日(日)
- はの講 六月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日)

〈詳細・お問い合わせ〉
黒住教本部「養心塾」事務局
〒01-11-11 岡山市北区尾上神道山
電話 〇八六一二八四二二三



貴方のご縁のある教会所は…

主要連絡先

大元・宗忠神社

〒700-0972 岡山市北区上中野1丁目3-10
TEL086-241-0148 FAX086-241-7860

神楽岡・宗忠神社

〒606-8314 京都市左京区吉田下大路町63
TEL075-771-2700 FAX075-771-2465

東京支庁・東京大教会所

〒154-0001 世田谷区池尻2-21-18
TEL03-3795-4142 FAX03-3795-4209
URL…http://www.kurozumikyo-tk.com

《北海道地区》札幌教会所

〒061-2282 札幌市南区藤野二条10-5-1
TEL011-876-8851 FAX011-876-8852

《中部地区》名古屋教会所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-33
TEL&FAX052-231-4285

《関西地区》大阪大教会所

〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪1-3-14
TEL 06-6771-8191 FAX 06-6771-8199
URL…http://www.kurozumikyo-osaka.com

《四国地区》今治大教会所

〒794-0026 今治市別宮町3-2-1
TEL 0898-22-2295 FAX 0898-22-2299

《九州地区》福岡教会所

〒811-1344 福岡市南区三宅2-10-14
TEL&FAX 092-5111-9623

黒住教機関誌「日新」

1冊150円/年間12冊1800円
お申込は教会所まで。

●まるごとダイヤル●

教主様・副教主様の講話・教団の活動情報が聞けます。

086-284-1111